

地域と大学

第45号

Newsletter No.45, Education Center for Regional Development

フィリピン・イフガオの地域社会のゆくえ

地域創造教育センター特任助教 川崎 和也

フィリピン・ルソン島の北部にイフガオという地域があります。首都のマニラから北へおよそ360キロの距離にある、標高500～1500メートルの山岳地帯です。かつて、私は、3年間、毎年、イフガオを訪れていたことがあります。

イフガオは、イフガオ族と呼ばれる人々が暮らす土地でもあります。彼らは、険しい山の斜面に棚田をつくり、稲作栽培を中心とする生活を営んでいます。その美しさから「天国へと続く階段」とも呼ばれ、1995年、ユネスコの世界文化遺産に登録されました。しかし、その後、イフガオの棚田は大きな危機に直面しました。多くの棚田が耕作放棄地となり、その荒廃が進んだのです。この事態を深刻に受け止めたユネスコは、2001年、イフガオの棚田を危機遺産に指定しました。その後、イフガオ州立大学やユネスコ、JICAなどの活動によって状況は改善し、2012年、危機遺産の指定を解除されました。しかし、その抜本的な解決には至っておらず、イフガオの棚田はいまも危機にさらされています。その原因のひとつが、地元住民たちが農業をやめて、賃金労働に従事するようになったことです。イフガオの農業は、その特異な地形のために、いまだ手作業が中心で、多くの労力を要します。さらに現金経済の影響が急速に浸透し、現金の重要性が高まっていますが、農業で得られる利益は多くはありません。賃金労働者の増加は、イフガオの地域社会にさらなる問題をもたらしています。イフガオには十分な雇用がなく、仕事を求めて、多くの住民たちが都会へ出稼ぎに出ています。なかでも若者の流出は顕著で、地元の大学生と話す機会がありましたが、そのほとんどが、卒業後、イフガオを離れるといいます。なかには海外へ出稼ぎ



に行くという学生もいました。

2022年2月、静岡県は、県内の推計人口が359万6643人となったと発表しました。静岡県の人口が360万人を下回るのは35年ぶりのことです。少子高齢化による自然減に加えて、社会減、とくに若者の県外流出に歯止めがかからないといいます。若者の流出は、地域社会に深刻な影響をもたらすことが懸念されていますが、それはイフガオでも同じです。私たち日本人にとって異文化世界であるイフガオ。しかし、その姿は他人事ではないと感じずにはいられませんでした。

さて、2018年2月、イフガオを再び訪れた際、1人の女性に声をかけられました。その女性がかつて地元の大学で出会った学生のひとりでした。卒業後、同級生たちが都会へ出稼ぎに出るなかで、彼女は、イフガオで観光ガイドの仕事をしているといいます。私は、彼女が、大学を卒業しても、自分が生まれ育ったイフガオに残って、ここで暮らしたいと語っていたことを思い出しました。その再会から4年が経ちました。彼女はいまもイフガオで観光ガイドの仕事をしているのでしょうか。新型コロナの流行が終息し、イフガオを再訪できる日が来るのを願ってやみません。

2022年度静岡大学公開講座

静岡大学では、地域社会に対し広く学習の機会を提供することを目的として、1978（昭和53）年より公開講座を実施しています。

今年度の公開講座は、下の表のとおり、4月から翌年3月にかけて多彩な14講座を実施しています。担当教職員それぞれの専門分野を生かした、特色ある講座となっています。

静岡と浜松にキャンパスをもつ静岡大学の特徴を生かし、県内各地で開講します。

なお、新型コロナウイルス感染症が拡大している状況を受け、止む無く延期・中止する講座があります。最新情報は地域人材育成・プロジェクト部門HPでご確認ください。

<https://www.lc.shizuoka.ac.jp/>



講座名	講師	日時	会場	対象	各日定員	受講料	主催
安心登山のための地図と地図アプリ活用術（初級編）	プロアドベンチャーレーサー・宮内佐季子 教育学部教授・村越 真	5/14(土)9:30～16:00	静岡キャンパス 屋内外	スマホやタブレットの地図アプリを利用して登山を楽しみたいと考える市民	40	2,000	教
多彩な視点から伊豆を学ぶ・知る [全5回]	未来社会デザイン機構副機構長・小山真人 地域創造教育センター准教授・山本隆太 農学部教授・今泉文寿 人文社会科学部教授・小二田誠二 未来社会デザイン機構講師・内山智尋	5/16(月)、7/19(火)、 9/6(火)、10/25(火)、 2/7(火) 18:00～19:30	対面（東部サテライト）とオンライン（Zoomミーティング）の併用	一般市民	対面20 オンライン 90	400	未
私のミカン～ミカンの通年管理教室～ [全5回]	技術部技術専門員・成瀬博規 技術部技術職員・周藤美希 農学部准教授・八幡昌紀	5/17、7/5、9/6、11/8、 3/7(火) 13:30～15:30	農学部附属地域フィールド科学教育研究センター	一般市民	10	11,000	技
安心登山のための地図と地図アプリ活用術（中級編）	プロアドベンチャーレーサー・宮内佐季子 教育学部教授・村越 真	5/28(土)9:30～16:00	静岡キャンパス 屋内外	スマホやタブレットの地図アプリを利用でき、初級編の内容を習得している方	20	3,300	教
子どもの「やってみよう！」を支えるために：遊びの中のリスクマネジメント	教育学部附属幼稚園副園長・柴田知江 他 教育学部教授・村越 真	6/8(水)9:30～11:30	教育学部附属幼稚園園庭（雨天時：遊戯室）	小学校就学前の子どもの保護者（満2～4歳のお子様の同伴可）	20	無料	教
ゲノム解析の最前線へようこそ！ [全3回]	グリーン科学技術研究所特任助教・兼崎 友 グリーン科学技術研究所准教授・道羅英夫 技術部技術専門職員・森内良太 技術部技術職員・村野宏樹 技術部技術職員・伊藤由希子 グリーン科学技術研究所研究補佐員・鈴木智子	7/29(金)、8/5(金)、 10/1(土) 10:00～17:00(10/1は 10:00～11:00)	7/29、8/5は対面（静岡キャンパス） 10/1はオンライン（Zoomミーティング）	静岡県内高校生	12	無料	グ
作って学ぶ、工学部の化学実験	工学部教授・植田一正 技術部技術専門職員・草薙弘樹 技術部技術専門職員・早川敏弘	7/30(土)、31(日) 14:00～17:00	浜松キャンパス	中学生・高校生（保護者同伴可）	各回20	無料	工
紅茶作りに挑戦しよう ※新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止	農学部教授・稲垣栄洋 技術部技術専門員・西川浩二 技術部技術専門職員・成瀬和子	8/2(火)13:30～16:00	農学部附属地域フィールド科学教育研究センター	小学生とその保護者、一般市民	20	1,000	技
体験！大学の化学実験 [全2回]	グリーン科学技術研究所教授・近藤 満	8/20(土)、21(日) 10:00～16:00	静岡キャンパス	中学生、高校生（保護者・引率教員の同伴可）	30	無料	グ

講座名	講師	日時	会場	対象	各日定員	受講料	主催
愛おしさから読み解くくだもの の多様性～園芸と民藝の融合～	農学部教授・松本和浩 (株)シーポイント代表取締役・野澤浩樹	8/27(土)13:30～16:30	健康文化交流館 「来・て・こ」	くだもの歴史、品種、味等の多様性またはそれらを活かした地域活性化に興味がある消費者、生産者	30	無料	農
コミュニケーションについて考える～言語活動によってつくられる私たちの世界～ [全5回]	国際連携推進機構助教・佐川祥予 教育学部准教授・藤井基貴 情報学部教授・吉田 寛 大阪大学国際教育交流センター教授・義永美央子 大阪大学国際教育交流センター教授・西口光一	9/3(土)・8(木)・ 10(土)・17(土)・ 18(日) 13:00～15:00(8日のみ) 18:00～20:00	オンライン(Zoom ミーティング)	言語に関心がある一般市民、学生、研究者	15	3,100	国
静岡大学キャンパスミュージアム 公開講座2022 [全5回] ※10/8を10/16に変更	理学部非常勤講師(ふじのくに地球環境史ミュージアム教授)・岸本年郎 理学部准教授・徳岡 徹 人文社会科学部教授・山岡拓也 理学部准教授・石橋秀巳 技術部・宮澤俊義	10/8・15・22・29、11/5 (土) 10:00～12:00	静岡キャンパス	一般市民、学生、小中高生(中学生以下は保護者同伴)	20	1,200 (小中高生は無料)	キ
健康・幸福につながる情報学 ※新型コロナウイルス感染拡大防止のためオンデマンドに変更 ※情報学部のwebサイトをご確認ください	情報学部教授・桐山伸也 情報学部准教授・梶原千里 情報学部助教・望月美希 情報学部教授・遊橋裕泰	11/12(土) 10:35～12:00	浜松キャンパス	興味のある方ならどなたでも	70	無料	情
安心登山のための読図とナビゲーション(中級編)	教育学部教授・村越 真 オリエンテーリング元日本代表選手・小泉成行	12/10(土)9:30～16:30	藤枝市石谷山 周辺の里山	下記①～③の条件をすべて満たした方 ①過去に本学開催の公開講座の初級編を受講した方(安心登山のための地図と地図アプリ活用術(初級編)を含む)、又は地形図の基礎知識がある方②登山経験者で7km程度を無理なく歩ける方、③YouTubeによる事前学習(予習)が可能な方	20	3,900	教

[主催欄凡例]

教=教育学部 情=情報学部 工=工学部 農=農学部 グ=グリーン科学技術研究所 キ=キャンパスミュージアム

国=国際連携推進機構 未=未来社会デザイン機構 技=技術部

地域創造学環部門の上半期（4月～9月）事業報告

静岡大学地域創造学環のカリキュラムの柱となる「フィールドワーク」の授業では、地域と連携しながら地域課題の解決に取り組んでいます。

2022年度前学期は、静岡県内14箇所16のテーマで、地域の方々と交流しながら、地域の課題や資源を発掘し、課題解決のための提案や実践を行いました。

また、地域創造学環のホームページでは、2021年度の活動をまとめたフィールドワーク報告書や、各フィールドの活動紹介を掲載しています。ぜひご覧ください。

【静岡大学 地域創造学環ホームページ】

<https://www.srd.shizuoka.ac.jp>

【2022年度前学期フィールドとテーマ】

フィールド	テーマ
静岡市 清水港周辺地域	清水港周辺地域が“つながる”“ひろがる”“にぎわう”活動
静岡市 庵原地区	庵原地区の地域資源を活かした食・スポーツによる地域活性化
静岡市 おまち	おまちを中心とした静岡市内のにぎわい創出
静岡市 浅間通り商店街	浅間通り商店街のにぎわい創出
焼津市 浜通り	地域住民と高校生との交流に基づいた地域づくり活動
浜松市 浜松文芸館 (公益財団法人 浜松市文化振興財団)	私のまちの文芸世界
浜松市 佐久間町	交流の輪づくり～新たな関係構築～
掛川市 田園空間博物館 南遠州とうもの里	子どもたちを呼び込むための環境づくり
御前崎市	御前崎スポーツ振興プロジェクト～スポーツによる交流人口の拡大と産業振興の推進～
松崎町	①なまこ壁が残る松崎町商店街のにぎわい創出 ②防災と観光の両立
東伊豆町	東伊豆町の新しい観光スタイルの発掘・創出プロジェクト
伊豆半島ジオパーク	①伊豆半島ジオパークにおける環境保全と防災対策 ②伊豆半島ジオパークの持続可能な開発と教育(SDGs/ESD)の推進
多世代の居場所づくり	多世代の居場所づくりと防災教育の実践
学内地域連携拠点	静大発 地域と大学の連携を広めよう!

地域創造学環2021年度フィールドワーク報告会

2022年5月26日(木)、静岡市のしずぎんホール ユーフォニアにて、「地域創造学環2021年度フィールドワーク報告会」を開催し、学生たちは2021年度に活動した静岡県内14箇所、16テーマの各フィールドにおける

課題点の説明や解決に向けての進捗状況について発表しました。今年度は3年ぶりの外部会場での開催となり、コロナ対策をしながら、フィールドワーク協力先の方々にも多数ご参加いただきました。



御前崎市

御前崎市フィールドは、「御前崎スポーツ振興プロジェクト」の連携先のひとつとして、2018年以来、スポーツによる交流人口の拡大を目指して、御前崎市内でフィールドワーク活動を行っています。2022年度は、御前崎市のスポーツ交流人口の拡大に向けた情報発信というテーマで、フィールドワークに取り組んでいます。

6月某日、御前崎市にある「静岡カントリー浜岡コース&ホテル」を訪問しました。まず、御前崎市役所企画政策課の皆さんから、御前崎市におけるシティプロモーション、およびその情報発信の取り組みとその課題などについてのお話をうかがい、意見交換を行いました。そして、静岡カントリー浜岡コース&ホテルの施設を見学させていただき、御前崎市におけるスポーツ交流人口の受け入れの体制などについて学びました。



また「フットゴルフ」を体験しました。フットゴルフは、サッカーボールを使って、ゴルフコースをラウンドするスポーツです。実際に体験しながら、スポーツ交流人口の拡大のための地域資源としてのフットゴルフの可能性や課題などを検討しました。学生たちは、プレイの様子を動画や写真におさめるなど、御前崎市の交流人口の拡大のための情報発信に向けたコンテンツづくりにも取り組みました。

「自分たちができることは何か?」「自分たちがやるべきことは何か?」を念頭におきながら、引き続き、御前崎市の魅力の発見とその発信に取り組んでゆきます。



浅間通り商店街

浅間通り商店街フィールドでは、6月末に開催された「輪くぐりさん」イベントの中で、子どもとその家族を対象とした「クイズラリー」、「フォトスポット」を企画実施しました。

「クイズラリー」では、浅間通り商店街の継続的な課題であった「足元灯の活用方法と周知」を受け、参加者に対して足元灯に注目していただけるようなプログラムを考案し、商店街を隈なく歩くことを促すクイズラリーを実施しました。学生たちは、参加者に配布する景品が足りなくなるなどの不測の事態にも商店街の方々の助けもお借りしながら臨機応変に対応しました。



【足元灯に設置したクイズラリーのしかけ】

「フォトスポット」では、輪くぐりさんに因み、「茅の輪の顔はめパネル」を制作しました。またYouTube動画「せんげん散歩」に登場するキャラクターを手持ちパネルとして活用し、参加者に記念写真を撮ってもらいました。また、この2つの企画の効果測定を行うため、参加者に「聞き取り調査」も行いました。



【フォトスポットでの撮影風景】

今回、多くの参加者があり、学生は運営に追われていましたが、多くの学びを得て、充実した時間を過ごすことができたようです。

地域人材育成・プロジェクト部門の上半期事業報告

地域連携応援プロジェクト

2011年度より「地域連携応援プロジェクト」として、本学学生・教職員が主体となり、すでに地域団体や自治体等と協働で取り組んでいる、または、新たに取り組もうとする地域の活性化につながる活動を学内で公

募し、支援しています。2022年度は13件の応募があり、全てを採択しました。年度末には成果報告書を刊行し、学内外に広く配布する予定です。

採択したプロジェクト一覧

部局	代表者	プロジェクト名
人文社会科学部	山岡 拓也	浜松市北区行者穴遺跡の発掘調査
教育学部	高橋 智子	共生社会の実現に向けた美術作品展の企画及び実施プロジェクト：特別支援学校卒業生のARTクラブとの連携を通して
教育学部	藤井 基貴	アートプロジェクト「すぱっくおやこ小学校」の協働実施を通じた子育て支援事業
教育学部	ヤマモト ルシ ア エミコ	静大生による地域の教育資源を活用したPBL活動プロジェクト
情報学部	杉山 岳弘	天竜浜名湖鉄道のオリジナルフォント制作による地域活性化事業
理学部	徳岡 徹	伊豆市鉢窪山ブランド化事業
工学部	立岡 浩一	浜松市と大学区との連携事業～大学生による講座～（小学生児童を対象とした理科工作教室）
工学部	戸田 三津夫	佐鳴湖プラットフォーム形成支援
農学部	松本 和浩	日本一の生産量を誇る「熱海だいたい」再興に向けた産地の来歴調査と苗木生産技術、果実外新商品の開発
学生支援センター	宇賀田 栄次	「エンパワメントセンター ICLa（いくら）」開設事業
未来社会デザイン 機構	内山 智尋	高校の「総合的な探究の時間」と大学の連携を通じた地域活性化プロジェクト
技術部	楠 賢司	浜松城跡35次発掘調査で出土した本丸石垣石材の採取地推定
技術部	宮澤 俊義	南アルプスの生物（いきもの）探索プロジェクト2～駒鳥池の微小生物の調査～

地域課題解決支援プロジェクト

地域からの課題提案を受け、学生・教職員と地域住民が協働して解決支援を試みる「地域課題解決支援プロジェクト」も10年目に入りました。本年度上半期の取り組み事例を紹介します。

松崎町

・地域創造学環フィールドワーク

松崎町では課題提案を受け、「商店街の魅力発掘とにぎわい創出」「防災と観光の融合」のテーマに分かれ、地域創造学環フィールドワークを実施しています。6月から9月にかけて7回ほどのフィールドワークが行われ、松崎町役場や松崎高校等と連携しながら課題に取り組んでいます。

・2030松崎プロジェクト

2020年12月から始動した2030松崎プロジェクトは、

公開ワークショップを重ね、中高校生が中心となって策定した13のゴールに向けた取り組みを展開するなど活発に活動しています（「地域と大学」第44号参照）。本年4月以降も毎週のようにワークショップや報告会等を開催しました。



2030松崎プロジェクトの様子

東伊豆町

・地域創造学環フィールドワーク

東伊豆町では課題提案を受け、NPO法人ローカルデザインネットワークを受入れ母体として、「地域の魅力の再発見と発信への取り組み～地域の人と外部の人との架け橋として」をテーマに4回実施しました。

フィールドワークでは稲取高校との連携・交流を図りながら活動を進め、6月14日には1年生70名が本学を訪問し、講座やワークショップに参加しました。

そのほか、伊豆半島ジオパーク、賀茂キャンパス、

南伊豆町、御前崎市等で地域課題解決支援プロジェクトから派生した活動を進めています。



稲取高校1年生の本学訪問

静岡大学創立60周年記念事業を継承した連携講座

1 静岡大学・読売新聞連続市民講座 「未来につなぐ＜食＞＜環境＞＜健康＞」

回	開催日	タイトル	講師	参加者
1	6/11(土)	老いはどこから来るのか?～老化のしくみとその対策～	丑丸 敬史(静岡大学理学部・教授)	90
2	7/2(土)	フェアリーリングの科学とその応用展開 ～人の健康と農業への貢献～	河岸 洋和(静岡大学特別荣誉教授)	79
3	8/11(木祝)	海洋の変容とサクラエビの危機 ～生態系に何が起きているのか?～	鈴木 款(静岡大学創造科学技術大学院・ 特任教授)	74
4	9/10(土)	緑茶とその成分の生理学的機能性 ～肥満予防効果を中心として～	茶山 和敏(静岡大学農学部・准教授)	100
5	10/10(月祝)	スポーツ栄養学はアスリートのための栄養学?	竹下 温子(静岡大学教育学部・准教授)	-

■会場：グランシップ（静岡県コンベンションアーツセンター）

第1回・第2回・第4回：交流ホール、第3回・第5回：会議ホール・風

■参加費：無料

■連携先：読売新聞東京本社静岡支局

2 静岡大学・中日新聞連携講座 「アフターコロナの社会と暮らしを考える」

回	開催日	タイトル	講師	参加者
1	10/18(火)	私たちの体は微粒子だらけ?! ウィルスサイズの微粒子が健康を支配する	田代 陽介(静岡大学工学部・講師)	-
2	11/15(火)	アフターコロナの家族・子育て・暮らし方を考える	白井 千晶(静岡大学人文社会科学部・教授)	-
3	12/20(火)	超高齢社会× デジタル社会をふまえた アフターコロナ時代の高齢者の居場所づくりを考える	須藤 智(静岡大学大学教育センター・准教授)	-
4	1/17(火)	アフターコロナを支えるイノベーション ～イメージセンサにできること～	川人 祥二(静岡大学電子工学研究所・教授)	-
5	2/7(火)	ウィズコロナからアフターコロナへの大学教育	小西 達裕(静岡大学情報学部・教授)	-

■会場：静岡大学浜松キャンパス附属図書館浜松分館（S-Port）3階大会議室

■参加費：無料

■連携先：中日新聞東海本社

主催事業

静岡大学東部市民講座

- ・日時：2022年6月25日(土) 13:00～16:15
- ・場所：プラサヴェルデ4階407会議室
- ・受講料：無料
- ・プログラム

① 13:00～14:30

「ジオサイトからたどる沼津・三島の大地の歴史」

講師：遠藤 大介（美しい伊豆創造センタージオパーク推進部・専任研究員）

② 14:45～16:15

「駿河湾沿岸地域の農耕文化の形成」

講師：篠原 和大（静岡大学人文社会科学部・教授）

- ・参加者数：51名



市民開放授業

静岡大学市民開放授業は、静岡大学の学生が受講している正規の科目の一部を一般市民の方に開放するものです。単位の認定はありませんが、入試なし、受講資格不要、簡単な手続きで受講できます。正規学生と一緒に受講していただきますので、若い世代の学生と交流を持ちながら学ぶことができます。

2022年度前学期市民開放授業は、新型コロナウイルスの感染が拡大している現状を考慮し、止む無く中止しましたが、後学期市民開放授業については、対面で授業を行う科目のみ実施します。

【開放科目（実施キャンパス）】

- ・比較文化各論Ⅴ（静岡）
- ・書道研究（静岡）
- ・書写研究（静岡）
- ・生物学Ⅱ（静岡）
- ・植物生化学（静岡）
- ・魅せる化学～環境から経済まで～（浜松）

また、後学期事前説明会を両キャンパスで開催しました。

- ・日時：9月21日(水) 14:00～15:30
- ・会場：[静岡キャンパス] 事務局別館1A会議室
[浜松キャンパス] 附属図書館浜松分館 (S-Port) 3階大会議室

2022年度企画実施委員会

当センターには、「企画実施委員会」が組織されています。地域連携・課題解決に関する事項や全学公開講座の企画・立案・実施に関する事項、その他大学開放および地域人材育成に関する事項について検討しています。今年度の委員は以下のとおりです。

- 阿部 耕也 地域創造教育センター長
- 江口 昌克 地域創造学環部門長
- 山本 隆太 地域人材育成・プロジェクト部門長
- 川崎 和也 地域創造教育センター特任助教
- 笠井 仁 人文社会科学部教授
- 渋江かさね 教育学部准教授
- 遊橋 裕泰 情報学部教授
- 富田 誠 理学部教授
- 戸田三津夫 工学部准教授

- 江草 智弘 農学部助教
- 水谷 洋一 地域創造学環教授
- 山本好比古 大学教育センター准教授
- 小形 徳応 学務部長（兼）地域連携推進課長

地域と大学 第45号

発行日——2022年10月15日

発行——静岡大学地域創造教育センター

編集——脇坂 友紀

〒422-8529 静岡市駿河区大谷836
(事務局別館2階)

TEL: 054-238-4817 FAX: 054-238-4295

E-mail: kaiho@suml.cii.shizuoka.ac.jp

URL: www.lc.shizuoka.ac.jp/

(事務局) 学務部地域連携推進課 ☎ 054-238-4056